

湯けむりユートピア

アインズ・ウール・ゴウン魔導王

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ここはじゃぱり温泉

様々なフレンズ達がゆつくり楽しんで身体を休めていく場所

さあさあその貴方も遠慮しないで、じゃぱり温泉へおいでませ。

目次

く御一行様、じゃぱり温泉へようこそく	1
かばんさん御一行様	7

く御一行様、じゃぱり温泉へようこそく

『黒いセルリアン』事件が終わってから数ヶ月——かばんとサーバルの雪山ちほーの話を聞いたフレンズ達が、じゃぱり温泉にお客さんとしてやって来るようになった。

そこでフレンズ達にゆつくり楽しんで貰いたいと考えたギンギツネは湖畔に居たアメリカビーバーとプレーリードッグの力を借りて、じゃぱり温泉をリニユーアルさせる。

そしてやって来るようになったのはフレンズ達に加えて様々なお客さんであった。今日もギンギツネとキタキツネのじゃぱり温泉には【御一行様】がどんどん訪れるのであった。いらつしやい、いらつしやい

ここは雪山ちほー

毎日が雪に覆われる寒い場所

吹雪が強くて寒すぎる時もあるけれど

晴れてる日は太陽と積もった雪、それに覆われた木々や岩に川

一面の銀世界が貴方の記憶に幻想的な思い出を残してくれる

でも寒いものはやっぱり寒い

ならいらっしやい、いらっしやい

ここはじゃぱり温泉

あつたか、じんわり、ぬくぬく、ほかほか

広い場所に岩で囲まれたお風呂

沢山のフレンズが入ってもまだ余りあるとつてもお風呂お風呂だよ

肩まで浸かって芯まで暖まろう

温泉は暖かい、だけどお腹もすくね

ならいらっしやい、いらっしやい

じゃぱり温泉の建物、大座敷へ

美味しい御飯が沢山あるよ、もちろんじゃぱりまんだつていくらでも

季節の山菜、新鮮な魚介類、美味しい甘味に多種多様なじゃぱりまん

身体が暖まって、お腹も膨れた

だけど何か楽しい事がしたいね

ならいらっしやい、いらっしやい

じゃぱり温泉のゲーム部屋へ

フレンズに合わせた色々なゲームがあるよ

トランプにサイコロ、ビリヤードにボウリング、トランプポリン。アーケード、筐体、据え置きにFPS、RPG、レースに格ゲー、SF

好みのゲームで疲れるまでおもいつきり楽しんでね。だけど勝ち負けで喧嘩しちゃダメだよ？

ゲームだけじゃ楽しめない？ならいらっしやい、いらっしやい

じゃぱり温泉映画部屋に談話部屋へ

ヒトが古今東西から集めた映画やビデオが観れるよ。怖いお話からかっこいいお話、悲しいお話や変なお話もたくさん

談話部屋は本を読んだりお話する部屋、じゃぱり図書館とはまた違った本が沢山置かれてるよ。みんなで本を読んだり、お話すると楽しいよ

色々楽しんだね。あれ？眠くなっちゃった？ならいらっしやい、いらっしやい

じゃぱり温泉のお布団とベッド

畳に敷いて寝るお布団も、そのまま寝られるベッドも気持ちいいよ

暖まって、お腹も膨れて、ゲームや映画、お話で疲れたらここでお休みなさい

まだやりたいことがあっても、また明日があるよ。ゆっくり休んで、今日出来なかった事を明日やろう

いらっしやい、いらっしやい

ここはじゃぱり温泉。フレンズが温泉に入って、ご飯を食べて、楽しく遊んでお話し
て、ゆっくり寝る、そんな素敵な場所

御用のフレンズはギンギツネとキタキツネへ

さあ、いらっしやい、いらっしやい

かばんさん御一行様

【かばんさん御一行様】

ギンギツネ「いらっしやい、じやぱり温泉へようこそ！」

かばん「こんにちは、ギンギツネさん」

サーバル「やつほー、ギンギツネ」

アライさん「はあー！これが”りにゅーある”したじやぱり温泉なのか！早く温泉に入りたいのだ！」

フェネック「アラゝイさゝん、はしやぐとまたころんじやうよ」

今日来たのはかばんさんとその御一行様。宿泊は2泊3日予定。

まずはチェックインを済ませると、次のお客さんが来ないうちに部屋へと案内するこ
とにした。というのももキタキツネがりニューアルされたゲームルームに入り浸るよう
になってしまったからだ。

昨日も何時間もゲームばかりしていた拳げ句に「ギンギツネ、超錬金は回復上昇薬と錬金術付呪裝備が4つ必要だから。回復上昇薬作成材料の項目にシロディールのスピードドールと塩も追加メモして」とかい出したから拳骨を入れた。

にも関わらず懲りずに今もまたゲームで「デイドラクエスト始めちやうとボラーの忠誠劍が永久消失しちやうから先に…」とか言つてて、せつかくのお客さんだというのに働かない。

ギンギツネ「まず部屋に案内するわね。」

かばん「はい、お願いします」

サーバル「みんなー！」

アライさん「なのだー…あああああ!？」

フェネック「アライさん、だから言ったのにね」

部屋へと案内する途中、アライさんが階段で転んでしまった。

当然階段なので斜めだ。だからアライさんは止まれずにゴロゴロと転がついてしまった。

ギンギツネ「はい、ここが部屋になるわ」

かぼん「わく！」

サーバル「なにこれなにこれ！緑色の板がいつぱーい！」

アライさん「これは一体なんなのだ〜？」

フェネック「アライさん、これは“タタミ”って言うんだよ。ここでは足に履いている履き物を脱ぐんだってさ」

アライさん「フェネック知ってるのか？やっぱりフェネックは凄いのだ！」

フェネック「…まあ博士に聞いたんだけどね〜（ボソツ）」

アライさん「フェネック？何か言ったのだ？」

フェネック「別に〜」

かぼんとサーバルは初めて見るタタミに心をワクワクさせ、アライさんとフェネックはいつも通りのやり取りをしていた。

ギンギツネ「私は下の受付にいるわね。温泉はいつ入っても大丈夫よ。でも6時から夕食だから、あまり遅れないようにね」

一同「「「はーい（なのだ）!!!」」」

かばん「ふー、気持ち良かった」

サーバル「ねー!」

アライさん「うう…頭が痛いのだ…」

フェネック「おー、よしよしアライさん。次は気をつけようね」

皆で温泉を楽しみ、ホクホク顔で部屋に戻るかばん一行。

なお、アライさんははしやいでお湯で足を滑らせて転けて頭をしこたま打ち付けてしまい、涙目である。

そしてフェネックは涙目のアライさんの頭を撫でてあげていた。

サーバル「でもまだご飯まで時間があるね！」

かばん「じゃあ、みんなでゲームセンターで時間まで遊びましょうか」

アライさん「賛成なのだー！」

フェネック「じゃあ私もアライさんと行くよー」

<リローウド！リローウド！>

アライさん「ぬわあー！この大きな剣を持ったやつなんなのだー!？」

フェネットク「アラ〜イさ〜ん、明後日のほうにたくさん撃っても攻撃は通らないよ〜？」

<フアス：ロ、ダー！>

<ドヴァーキン！やめろお！>

サーバル「かばんちゃん！今だよ！」

かばん「うん、サーバルちゃん！」

アライさんとフェネットクはアーケードゲームの○ンパイア○イトを、かばんとサーバルは据え置き型ゲーム機でS○Y R I Mをそれぞれ楽しんでいた。

アライさんは序盤のボスの攻撃を見切れず——の以前に、初見殺しとは言えないボス相手に弾を明後日の方向に撃ちまくりつつ大苦戦していた。

対してかばんちゃん物語をサクサクと進めており、メインクエスト最初のボスとなるドラゴンとの戦いに勝利しようとしていた。

<リロワード！リロワード！>

アライさん「こいつ強すぎるのだー！」

フェネック「アラ〜イさ〜ん、まだファーストステージクリア出来ないね〜…あ、道連れ成功…」

<トート・シユル!!>

サーバル「かばんちゃん、あいつ後ろに下がりだしたよ！」

かばん「うんサーバルちゃん、後はあのナークリーンの仮面を集めれば、ラビリンシアンでコナヒリクの仮面が取れるみたいだよ」

それから1時間、アライさんは未だにファーストステージをクリア出来ないまま明日の方向に弾をばらまいていた。

フェネックはアライさんを応援しつつも傍らでWi〇Uの大〇闘をプレイしており、ハ〇ラルの魔王様の横+B技でステージ端での道連れを連発していた。

そしてかばんはサーバルの協力の下、これまたサクサクとゲームを進めており、現在は竜の司祭の仮面集めに邁進していた。

サーバル「ふう、楽しかったねかばんちゃん」

かばん「うん、サーバルちゃん。あの最後は感動したね」

アライさん「うう…結局あいつに勝てなかったのだから」

フェネットク「アラ、イさくん、元氣出しなよ」

ゲームセンターでゲームを楽しんだかばんちゃん御一行は、夕食時間の手前くらいで部屋を出て、じゃぱり温泉の座敷へと向かっていた。

と、そこでサーバルがじゃぱり温泉本館の入口の暖簾をくぐって新たに入ってきたお客さんに気づいて、声をあげた。

「あ、みんな！新しいお客さんが来たみたいだよ！」